教育研究評議会議事録

令和６年１０月２９日（火）
9 時 00 分から１０時 10 分まで
法人本部３階　第一会議室

出席者
議　長　　玉手英利（学　長）
評議員　　飯塚　博　　出口　毅　　根本建二　　宮内健二　　伊藤眞知子　　纐纈　晃（理　事）
　　村山秀樹　　大森　桂　　コーエンズ久美子（副学長）
　　森岡卓司　　中島　宏
　　中西正樹　　津留俊英
　　並河英紀　　宮地義之
　　永瀬　智　　黒田充紀
　　野々村美宗　渡部　徹
　　塩野義人　　千代勝実
　　土谷順彦　　大西彰正
　　布施淳子　　木村直子
　　渡邉信晃

欠席者
評議員　　伊藤浩志　　鈴木民夫　　内海由美子　　高澤由美

陪席者
監　事　　小屋　寛
学長補佐　石垣和恵　　西岡斉治　　星野友紀

１教育研究評議会議事録（10 月 9 日開催）について
　玉手学長から，前回 10 月 9 日開催の本会の議事録（案）について確認があり，議事録が了承された。

２【協議】教員養成に係る組織改革について
　宮内理事から，教員養成に係る組織改革について審議願うものである旨説明があった。
　次いで，玉手学長から，本件について諮られた結果，令和８年度から教育学部開設により本学の新たな教員養成体制を構築することについて了承された。

　本件に係る主な意見及び質疑応答は次のとおり。［評議員からの主な意見等（〇：意見・質問）］

〇80％の教員就職率を達成できるとの話だが，今後，教育学部がどのように教職課程に取り組んでいくのか。
→教員に対するモチベーションの高い受験生を多く取り込み，入口のところをしっかり変えていきたい。地域枠入試の取り組みをすでに始めようとしており，入試戦略の面でもいろいろ変えていくのが一点。教育学部に変われば，看板だけで，受験生の意識が変わるところがあると思う。入ってからのモチベーション維持については，今年採択された地域枠を活用した文科省の事業で，入口だけではなく，入ってからの教育，そして出口の就職までを含めた事業になっているので，そこを中心にモチベーションを落とさないように変えていくことを今取り組んでいる。
〇以前と異なる新たな教育学部を，現場としてどのように作りたいのか。
→これまでは，一般学部として地域連携を強みとしてきた。そこに関するノウハウと実績があるので，学校の中だけではなく，学校の中と外の両方から子供を教育するという視点を持った教員を育てるというのが大きなテーマとなる。これが，山形大学のオリジナリティのある話だと思っている。文科省からも，学校の外を含めて連携できる教員を育てる点を評価していただき採択されたので，他大学との差別化になると思う。
〇前回の評議会で，玉手学長からリソースの共有，新学部へのメリットが大事だという発言があった。農学部では，教職課程を復活させたいと考えているが，その点に関して，どのように考えているのかお聞かせ願いたい。
→農学部の免許については，リソースとの兼ね合い次第だと思う。現状，小白川３学部の中でリソースを共有し合い，免許を出している。現状に農学部をプラスしていくとき，どういう可能性があるのかは，ご相談させていただきたい。協力していくためには，全体の教員養成を効率化しながら考えていかなければならない。いろんな工夫の仕方があると思うが，どの科目の免許を出すかは，全体の戦略になってくると思う。

→免許の出し方については，執行部や関係学部で，個別に検討していく必要があると考える。
○これまで，学部の改組は，関係学部の中で閉じた議論になっており，他学部から見ていてあまり深く考えることはなかった。メリット，デメリットを考えたとき，メリットとして，農学部の教職課程復活に，どれくらい新しい教育学部が力を貸していただけるのか。遠隔キャンパスがあるというのが大きな特徴なので，遠隔キャンパスと共同で教職課程を開講するということはできないのか。具体的には，リモートでの講義発信等。そういった改組をしていくと言っていただくと，非常にメリットを感じる。デメリットについては，教職課程には免許が関わってくるので，今後も同じ教員の人数が必要なのかを，見通しも含めて教えていただきたい。今後，大学の中で全体の教員数を絞っていくときに，教育学部も人数を減らすことに協力していただけるのか。
→教育学部の開設は，全学的な教員養成の拠点としての位置づけとなっている。全学部との関わり方は，今後の議論かと思う。教職課程の遠隔手法の配信など，いろんな手法が想定される。具体的にどうしていくかは，今後，執行部を交えて，個別にご議論をさせていただきたい。教育学部の教員数は，改組時点で何も足さないし，何もひかない。令和８年度以降，教育学部として進行した後も，聖域化するものではない。ただ，教職課程については，教職課程基準があり，養成を続ける中での教員数削減はできない。すでに，地域教育文化学部の中でいろんな改編は行われたと思うので，今後も，いろんな手法を使いながら考えていきたいので，ご理解いただきたい。
→農学部との授業開設について，教職の授業は，オンラインになじまないところもある。また，課程認定の特例措置もいろいろとあるので，例えば，小白川にいるうちに対面でする等，ご相談になると思う。
○教育学部を解体して一般学部に変わった際，地域からの反対があったと思う。その間に，ある程度機能を保っていた大学もあるし，最近では，私立大学も採用を伸ばしている状況。今回の改組は，近隣の大学に対して，競争を挑むということか。それが国立大学としての正しい立場なのか。近隣にある大学と連携をして，南東北全体としての教員養成の機能を補うようなことで参画するのであれば，現状だと，競争を挑むように見えるのでご説明いただきたい。
→山形にある大学なので，山形に高い資質能力を持った教員を，一定量きちんと確保していこうというところ。山形にある地方国立大学として努める責務があると思う。そのうえで，各大学とさまざまな連携を図っていきながら，学生が行き来している宮城・福島・山形の３県で協力し合いながら，東北地方全体の教員を輩出していこうというもの。
→一般学部にした時に，南東北で教員養成をしていくことが，次のビジョンとして提示された。その方針でずっと検討してきたが，まとまらなかった。その中で，共通項を見い出せた東北創成国立大学アライアンスで，教員養成の特定の教科についてやっていこうと，宮城教育大学がリーダーシップを取って各大学に働きかけているところ。各大学で，基本的にはその県をベースにし，教員養成をやっていくことを改めて宣言するものなので，大学連携の流れからすると違うかもしれない。今後のロードマップを考えると，教育学部を作って回し，例えば，部分的にでもアライアンスでやっていく検証も含めて，山形大学でどこの講習か，あるいは教科か，見直しをすることもあるかもしれない。そういう形で，これからリソースの確保をしていかなければならない。大学連携を捨てたわけではないが，相手と歩調が合わないと難しく，現在のような結論となった。
→教育連携を捨てたわけではない。この分野では，量的に足りない状況が続いているので，競争するまでもなく，足りていない状況。各県が，教員を作っていかなければならない状況が少し変わってきた。教員養成を行う大学と同じ仕組みに入ったほうが，連携しやすい部分もある。競争しているというより，協同していくための素地作りをしているところであり，リソース作りも含めて，展開が可能になってくる局面。また，県内の私大にも説明し，ご理解いただいている。現職教員の研修で，これから他大学の受け入れも可能なので，そういった部分で展開可能だと考えている。
→お互いの合意が取れないと進まないので，学内外で多方面の工夫はしていかなければならない。背景的なところでは，一般学部と教員養成学部に対する文科省の考えが変わってきたという実感もある。学部改組を検討する数年前から，地域枠入試や特別プログラムなど，いろいろな準備はこれまでやってきた。
○合意形成が大事だと思うので，グランドデザイン 2030 で議論している中で，背景や地域の状況を情報共有して欲しかった。
○教員側のモチベーションはいかがか。全員がモチベーションを上げているのか。また，教員の総意で，教育学部に変えてほしいと言っているのかをお聞かせ願いたい。
→児童教育コースの教員は，すでにそういう意識でいる。文化創生コースの教員からも合意を得ており，教科専門教員も教育法の授業に参加しており，教員を目指すための教育に貢献していただいている。意識の切り替えは比較的スムーズにいくと思っており，文化創生コースの教員も学部としての考えに沿っていただいている。
○地域教育文化学部以外から教員になっている数字は，押さえているのか。
→押さえている。
○附属学校の位置づけはどうなるのか。
→附属学校は，平成 17 年の改組により，教育学部附属から大学附属に改編している。今回その位置づけを変える予定はなく，附属学校は全学的に，教育実習の場として利用されるであろうと考えている。
→附属学校との関係については，今後，学部と一緒に運営面をどのようにしていくか考えていく。文化創生コースの母校実習について，さらに強化して実習を行っていくことも，今後議論させていただく。
○機能強化して，良い人材を養成していくために，学部改組は行われるべきだと思っている。一方，教

育学部に，他の学部が大きな期待や負担をかけてはいけないと思う。今後，新学部を作る際に考えていただきたい。人的リソース等，過大な負担がかからないような設計をしていかないといけないのではないか。

→完成年度，また，それ以降のリソースマネジメントとして，全体，そしてそれぞれの学部で必要な教員数について，もう一度ロードマップの確認をし，手配していく。もし，教育学部も，完成年度以降に，特定の講習や教科の見直しが必要であれば，どのくらいのリソースが必要であるか，都度確認していきたいと思う。

→リソースに係る多岐に渡る問題や，ご要望いただいた部分も，グランドデザインの中でもきちんと議論をしていかなければならない。

3　その他

玉手学長から，情報セキュリティインシデントに関して，報告があった。

次回は，令和 6 年 11 月 11 日（月）に開催することとなった。